

令和5年度 第4回小牧市地域協議会推進市民会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年3月6日(水)
午前10時～正午

開催場所 小牧市役所 東庁舎5階 大会議室

2 出席者

- 【1】 推進市民会議委員 11名

欠席：小柳委員、舟橋委員、近藤委員、土屋委員、平手委員、兼子委員、
野地委員、安藤委員、藤本委員

- 【2】 事務局 支え合い協働推進課

倉知課長、堀田主幹、臼井係長、落合主事、川口主事補

- 【3】 傍聴者 0名

3 会議資料

・会議次第

・資料1 今後の地域協議会活動に向けて

・資料2 小牧市地域協議会推進市民会議 活動等のまとめ

4 会議内容

1 あいさつ

2 今後の地域協議会活動に向けて(資料1)

3 活動等のまとめ(資料2)

4 その他

5 その他

【事務局】

ただいまより令和5年度第4回小牧市地域協議会推進市民会議を開催させていただきます。本日年度末の大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

[欠席者の連絡]

[市民憲章の唱和]

それでは以降、加藤会長に司会進行をよろしく申し上げます。

【加藤会長】

おはようございます。本日は今年度の最後第4回目でございます。次第をご覧ください。次第の2では今後の地域協議会活動に向けて今年度3回話し合ってきた集大成を事務局さんがまとめられ方向性が示されました。次第の3活動等のまとめについては本会議のまとめについて報告があると思います。まず次第の2、資料1の説明を事務局さんからお願いします。

【事務局】

次第の2、「今後の地域協議会活動に向けて」について、資料1「今後の地域協議会活動に向けて」をご覧ください。令和4年度から、推進市民会議において4回にわたり、9地域協議会から、各小学校区の活動の現況や自慢、今後の課題(悩み)などをお話いただき、委員の皆さんと現場で活躍する地域協議会との情報共有と、委員の専門的な知見から具体的なアドバイスをもらうなど意見交換を行っていただきました。令和5年度からは2回にわたり、各協議会に取り組んでほしい素晴らしい活動と共通する課題について、委員間で意見を交わしていただきました。前回11月に開催した、第3回の会議においては、「地域課題の見つけ方」、「企業・団体が関わりたくなる活動」、「子どもやお年寄りが暮らしやすい地域にするには」などについて意見をいただいたところです。委員の皆さんからいただいた意見から、地域協議会の活動の活性化について、4つの視点を得ることができました。

一つ目の、「1. 取り組んでほしい素晴らしい活動(1)特徴1 着眼点 ①地域課題に沿った活動、②地域の財産の活用」について、得られたのは次の視点です。「地域の財産(人・物など)を活かした、地域課題の解決が、交流、住民の

安全・安心な暮らしにつながる。そのために、継続的に地域課題と地域の財産を把握していくことが必要」これは、地域課題の解決に、地域ならではの財産を使って、地域ならではの解決に向けて活動していくことで、人と人が支え合いで結ばれ、安全・安心な暮らしにつながっていくというもので、合わせて、地域課題へのアンテナを高くしておくことも必要であるというものです。

二つ目の、「(2) 特徴2 積極的な連携・効率化 ①他団体・企業との積極的な連携、②事業の効率的な実施」について、得られたのは次の視点です。「連携には、地域の団体・企業のニーズを知り、地域協議会側が何をできるのかという視点が大切。そのために地域協議会自身の強みを知ることが必要」これは、連携相手のことを理解するとともに、協議会自身を理解して、歩み寄ることで、良い関係を築くことにつながるだろうというものです。

三つ目の、「2. 抱える課題 ①仲間を増やすためには、②もっと気軽に活動を、③地域協議会に関心を持ってもらうには」について、得られたのは次の視点です。「やりがいの共有と簡単な活動から参加できる仕組みづくり、あわせてPR活動による認知度向上が必要。」これは、どれだけ素晴らしい活動でも、難しそう、面倒くさそうに見える活動に人は集まらないので、やりがいがありそう、楽しそう、と思ってもらえるような活動方法、PRの仕方が必要というものです。

四つ目の、「④地域協議会で伸ばしていきたいこと（こども・お年寄りが暮らしやすい地域にしていくには）」について、得られたのは次の視点です。「地域の特性に応じた課題解決の仕方であり、できることの積み重ねを続けていく。」これは、各小学校区において、こどもの数、高齢化率が異なることから、地域課題としての重みや、課題解決に取り組む地域協議会メンバーの考え方、できることも異なってくると考えられます。まずは、できることから始めてみて、難しければやめることもあり、別の団体・企業の助けを待つもあり。地域協議会だから、〇〇をしなければならない、と縛りすぎるのではなく、取組みや進め方に自由があって、地域協議会の運営にもいろんな余地があることが大切なのではないかというものです。

課題に対する取組みとして、これらの4つの視点について、一律に協議会がやらなければならないという意味ではありませんが、状況に応じて取り組むことができるという活動が挙げられました。4ページをご覧ください。具体的に次のような取組みが有効であると考えます。地域協議会においては、「各地域協議会で、地域住民・団体・企業などを交えた地域づくりミーティングの開催、地域特性に応じた活動プラン（地域ビジョン）づくりと共有」です。

これは、さらなる活動の活性化に向けて、地域協議会以外の団体と関わり持つためのコミュニケーションを取る機会として、地域づくりミーティングを行うことで、新たな発見があつて、刺激を受けたり、協議会だけではできなかったこともできるようになることが考えられます。また、地域協議会の活動をPRしていくために、活動のプラン（地域ビジョン）を作ることで、協議会の苦手なこと、できないこと、反対に協議会の強み、魅力を中の人たちにも、外にも共有しやすくなると考えます。

そのために、市の支援としては、地域協議会での地域づくりミーティングの開催、活動プラン（地域ビジョン）づくりを支援するほか、認知度向上のため、協議会活動・事業のPRのための取り組み、地域協議会活動の手引きの改訂なども進めていきます。

【事務局】

ありがとうございました。3分ぐらい整理する時間を取りたいと思います。隣の方と話したり、資料を読む混む時間にしたいと思います。その後で意見交換ができたらいいなと思います。では、お願いします。

【意見交換等】

【船橋委員】

地域協議会は区の集まりだと思っています。色んな行事は区単位で行っています。三ツ泷学区にはその上に巾下区、西部コミュニティセンター運営協議会で村中学区と一緒にやっています。三ツ泷小学校区だけの話になりますが、昭和54年に学区コミュニティができてから40年近くが経ち、令和2年に地域協議会となりました。前は地域の運動会とか納涼盆踊りとかカラオケとかいろんな行事がありました。が、どんどん減って今はグラウンドゴルフや健康フェア、防災訓練、住民作品展だけです。コミュニティだよりを作るために、以前は企業からの協賛金を集めて費用を捻出していましたが、今は協議会の予算からお金を出しているので企業との関りは今はなくなっています。住民作品展だと小学校・中学校・保育園や各サークルから出展していただく繋がりがあつていいなと思います。スポーツ振興会と三ツ泷学区コミュニティとの連携がうまく取れていない状況もあります。高齢化で運動会もできなくなってきました。うまく連携ができると地域の絆というか、いろんな人と知り合えるのでいいなと思います。

学区コミュニティの役員は2年ごと、委員は1年で変わってしまうのでその辺が今後ネックになってくるのかなと思います。

【山本委員】

今回この資料を作っていただいたことにより、内容が整理されて分かりやすいと思えました。地域特性に応じてということが一番難しいと思えます。老人を主体に置くのか、子どもを主体に置くのかでも活動は変わってくると思えます。

【関委員】

市民活動ネットワークの関です。

資料を見させていただき、自分と違う世代の人と話をするのが良いとか、強みを知るとか具体的なキーワードが出てきて素晴らしいなと思えます。私たちも普段業務をしていて、担い手不足ということを感じています。最近、職場内でよく話すことをお伝えさせていただきます。困っていることや、やり手が少ないことや、担い手不足という事を皆さんも感じていると思えます。逆を言うと、困っているという人ほど地域課題を知っていて、皆さん主体性があると感じます。それぞれ皆さんが、地域のあるべき姿とかこういったことが必要なのではないかと考えながら活動をされていると思うのですが、その中には小さな成功体験やストーリーがあったうえで主体的に取り組まれているものと思えます。

例えば、家の周りで困っていることが解決したから、自分は地域でやってみようかとか、子ども食堂だと、子どもがそこに訪れて笑顔になったから、そういう活動を続けたいとか。小さなことでもいいんですが、課題を解決した時に相手がどんなことを感じるかを知っているというのはすごい強みだと思えます。それを伝えていただくことも重要だと思えます。

資料の中に地域での意見交換会や企業とのミーティングという点があります。困ってますとか、こういった地域課題がありますという話も大事なんですが、私はこういったところにやりがいを感じているという話だったり、私の身のまわりの人は関わった方がこう変わったとという話をすると、相手にも伝わって自分も何かできるかもしれないだったり、その変化に自分も入っていると意識が少しずつ変わると思えます。行間や余白にすごい変化が起きているのかと思うのですが、そういうストーリーを持っている人が伝えていくことも大事なのかなと思えました。

【森川委員】

先日の代表者会議では1つ2つの協議会を除き、担い手不足で役員を兼任せざるを得ない状況だという話を聞きました。この会議での話と実態とが乖離しているような気がします。協議会の役員さんの中でさえ、協議会が何を目的に活動するかわかっていない人も多いだろうと思えます。委員の皆さんにも実態を見てから話し合いをしてもらおうと、より良い話し合いになると思えます。

【加藤会長】

他の方からもご意見をいただきたいので他にご意見がある方いますか。

【吉田委員】

森川委員も言われたんですが、私は生え抜きの北里区民です。北里小学校区地域協議会ができたときに、私は民生委員として出席しました。たまたま民協会長でもあったので、会合を何回か重ねて目的については理解しました。協議会の代表は大変だろうと思います。担い手がいないとか、高齢化とかどこのまちでも一緒だと思います。春日井に住んでいる池谷委員に話を聞きますと春日井市には地域協議会のような組織はなく、かわりに地区社協が全部を把握していますとのことでした。小牧市は6地区、人口15万を少し切るぐらいのコンパクトな規模です。

市の広報でそれぞれの協議会が実施していることを伝えてもらっていますが、地域協議会への関心がまだ少ないと思います。もっと浸透していけばいいなと思います。担い手不足というのは現実の差し迫った話なので若い世代の人にもっと警鐘していかなければならないことだと思います。非常に難しい課題だと思います。雇用延長もあり実質体が空くのは70歳代からです。地域の役員さんも高齢者です。そういった事情も踏まえて地域協議会に力を入れていただき10年。あと2小学校区で設立に向け働きかけを行っているとのこと。森川委員の「皆さんも地域協議会のメンバーにならないと話がかみ合わない」という話も理解できます。

【加藤会長】

ありがとうございます。他の人も意見ありますか。今、話したことで感じたことでも。

【高島委員】

いち小牧市民として話をします。この会議に参加して地域協議会の方たちがかなり努力されていることを知りました。この会議に出られて学ばせていただくことが多くあったので良かったなと思います。第三者的な立場で言うと、学校と連携することが一番良いのではないかと感じました。自分自身教員として学校にずっと勤めていました。学校も働き方改革でいろいろ難しく、地域と繋がりたいと考えています。地域も学校と連携したいと思っている方もいると思いますし、学校も助けてほしいと思っています。その辺がうまくいけばいいなと感じました。

【加藤会長】

地域によっては学校と密接なところもあると思います。
まだ話をされていない方からも発言をいただきましょう。せっかくなので行村委員にも一言いただきましょう。

【行村委員】

国際交流協会の行村です。資料を見て、また何回か会議にも参加させていただいて、いろいろなお勉強をさせていただいたと思いました。ありがとうございました。

【加藤会長】

石田委員からも一言いただきましょう。

【石田委員】

こども食堂の石田です。小牧南小学校区で活動をしていますのでちょっと動いてみようと思っておりました。先ほど話題にもなりましたが、協議会の中に核になるものをおいて活動を展開していくものだと思います。私どもの立ち上げたこども食堂は色んな方面に広がっていきます。これを使ってやってもらえないかなと思っておりましたが難しすぎて何からすればいいかわかりません。また皆さんのご指導もいただければと思います。

【加藤先生】

ありがとうございます。次、池谷委員どうぞ。

【池谷委員】

私は社会福祉協議会で地域づくりを進めているところです。共通して言えるところが、人材不足です。どのように人材を見つけていくか色んな分野で課題なんだと感じました。改めてこの資料を見て、地域課題への取り組み方から考えていかなければならない時期に来たなと思っています。社会的にも定年延長や、地域の役員は仕事を退職しないとできないような仕組みになってしまっているところも課題であると感じています。

【加藤会長】

最後は伊藤委員お願いします。

【伊藤委員】

みなさんのご発言を聞き、協議会の中に入れていただけるなら入っていきたいなと思いました。大学の教員なので学生たちを連れていくことができます。小牧

市の周辺だと前任校の名古屋経済大学に働きかけることができると思いますが、どういった所で受け入れてもらえるのかなという事をお話したほうがいいと思いました。

学校や学生が入っていこうという気持ちを受け止めるために、地域がやってもらうことを探さなければならないというのはいけないと思います。どうしてそういったことを言うかという、人手不足はクローズな状態であればあるほど、どうしたって必然的に人手不足になります。出身者なんだけど離れている方など関係人口を使うしかないんです。役員さんや委員さんの負担が大きいから、次の代に渡すだけで会長さんをなんとかやってもらっている人もいます。地域の特性とか事情によりけりなので、事情をくんで回していくしかないわけです。地域づくりミーティングや特性に応じた活動を続けられるようにしていただきたいと思います。

2 ページのところにある「効率化」というキーワードに引っ掛かりを感じています。一斉に大量にという効率化ではなく、みんなになるべく負担をかけない形でちょっとずつ関わってもらうという意味と思っています。みんなにちょっとでいいんだという事を伝えられるチャンスが十分でないことは何なんだろうと思っています。人口減少とシニアの働き方が変わってくる中で、学生世代や学校の若手にも、生活の場は大きくまとまりきらないですが、地域課題の解決という問題に対して取り組んでいくためには、小さな活動にも目を向けつつ、小さく負担をかけられる部分をお願いしながらみんなでやっていくところに立ち返らないといけないと思いました。

【森川委員】

大学の学生さんも参加されたことがありましたが、結局 1 回限りになってしまいました。学生に何をやってもらうかというメニューがない状況です。1 回参加された後のフォローまでができていなかったということです。

イベントへの応援のボランティアで参加されることはあります。その後の活動は続いているんです。

【伊藤委員】

ゼミとかの単位で継続して参加をしてもらえればいいなという気はします。

【森川委員】

イベントであればいいですが、味岡のように福祉関係ばかりに重点を置いている所はなにをやってもらえばいいかも困ってしまいます。どうなのでしょう。

【加藤先生】

さっきの伊藤委員の話にもありましたね。
今日、森川さんに口火を切ってくださったから、代表者会議のほうは活動されている方が集まって生の話をする場なので市としては別の会議体として設けていらっしゃるって、ここはもう少し幅広い見地から、学識の方、地域の方や中間支援の方、こども食堂をやられている方、消防のことをやられている方、国際交流をやられている方が集まって話し合うことに意味があったと思います。逆に森川さんの言う通り、現場は全然違うという話を大きな声で言ってもらえて顕在化したことはいいことだと思います。みんなが現場に行って話をしたほうが早いかもしれませんが、それは代表者会議でいいと思います。ここではそれぞれの立場で、そもそもどうなのという話ができたと尊いことだと節目になってそんなふうに感じています。今いただいたことについて事務局さんから何かあればお話ししたいと思っています。

【事務局】

ありがとうございました。様々な意見をいただきまして、みなさんが思っていることと事務局が思っている部分と同じくあります。地域活動の担い手不足という問題は非常に大きいと思っております。森川委員のお話しされたことは痛いほどわかる部分です。

地域づくりミーティングや活動プランの共有などを通じて、協議会が何なんだということが分かってもらえない限りは参加される方も来ないということです。協議会とはこういうものだとお知らせするものを作っていかなければならないということと、あとは参加するきっかけのために話し合いの場を作っていくことが大事なんだと思います。活動にかかわる人を増やしていけないかと考えています。

協議会も様々で、会長自らが強いリーダーシップを発揮する協議会もありますが、各部会が自由に考えて動くことで会長は調整役や代表としていらっしゃる協議会もあります。協議会のバリエーションとして豊かになってきたと感じるところです。協議会の活動は肌に触れてみないとわからないよというのはおっしゃる通りかと思います。代表者会議での話合いが色濃くなってきたと実感している所です。事務局としても今後とも地域づくりミーティングや地域ヴィジョン作りについても支援をしていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

【加藤会長】

わかりました。1 つ目の議題と意見交換についてはここまでにして、次第の3 活動等のまとめについて事務局さんから説明をお願いします。

【事務局】

それでは、次第の3「活動等のまとめ」について、この2年間の活動を皆さんと一緒に振り返ってまいりたいと思います。

1 推進市民会議の活動ですが、先ほどの説明と重複する部分もありますが、令和4年度から、推進市民会議において4回にわたり、各地域の活動の現況や自慢、今後の課題（悩み）などを聞き、委員の皆さんと現場で活躍する地域協議会との情報共有と、委員の専門的な知見から具体的なアドバイスなど意見交換を行っていただきました。そして本日、協議会活動のさらなる活性化に向けた視点、協議会の取組みをまとめることができました。

2 令和4～5年度の地域協議会設立状況について、この2年間で設立された協議会はありませんが、4月20日に、村中小学校区地域協議会が設立総会を予定しており、14番目の地域協議会となる予定です。残りの2小学校区（米野、小牧南）においては、区長会と南部コミュニティセンター運営協議会に対して説明を行い、米野小学校区では勉強会を3回行ったところです。引き続き、両小学校区での地域協議会設立に向けた働きかけを行っていきます。

3 ページをご覧ください。その他、推進市民会議の提案に基づく取組みについて、委員の皆さんの意見の中で、地域協議会の認知度向上に関する意見がありました。それに関わる取組みを紹介します。この推進市民会議で行われた活動発表の様子を地域協議会ユーチューブへ掲載しました。陶、大城の2協議会で、地域協議会ホームページを立ち上げられました。市公式LINEを使った情報発信について、まずは、小牧の3世代交流会の案内を、3月3日に行いました。今後は、各協議会の行事案内を月1回、行う予定をしております。これによって、これまで地域協議会の情報に接する機会がなかった方にも目に触れてもらえる機会になったのではないかと思います。また、小学校の了解を得られたところにつきましては、学校と保護者の欠席連絡等の情報共有用アプリ上で、地域協議会の行事案内を行っているという聞いております。

4 委員の任期ですが、今回の会議をもちまして、委員の皆さんの任期が満了となります。長い間、地域協議会の推進に多大なるご尽力をいただきまして、ありがとうございました。

説明は以上です。

【加藤会長】

資料の2「活動等のまとめ」について、感想とかご意見がある方はいますか

【森川委員】

米野小学校区、小牧南小学校区は何回も会合を重ねても未設立だということについて、その原因はどのように分析されていますか。

【事務局】

未設立地域の要因分析ということですが、村中小学校区、米野小学校区、小牧南小学校区には共通した特徴としてコミュニティセンターという施設があります。そこで既に施設の運営協議会という形で各種、施設を活用するためのイベントや、青色回転灯パトロールによる防犯活動、高齢者サロンなど福祉的な活動もされています。協議会の趣旨は理解できるが、今ある活動との重複や負担増のご意見をいただいております。コミュニティセンターで実施されていない、例えば、小学校での防災訓練のように絞った、今の活動と差別化した活動を中心に事業を組んでいくことに時間がかかっていると考えています。時間をかけて説明をしていく中で、相手方の区長さんらも代替わりをしていつている状況です。中心的な人物を地域の中で見つけていくことも重要と考えています。

【森川委員】

北外山が複数の学区に分かれてしまっている事にも問題があると思っています。

【石田委員】

学区が跨っている事よりも、南部コミュニティセンターでの活動があるので協議会は不用だとの意見があるのだと思います。南部コミュニティセンター運営協議会がやっていないことを考えて中心に活動をするにしなければ南部で協議会を立ち上げることはできません。

【森川委員】

設立推進に長い期間がかかっている印象がありますので、設立ができていない2地区については設立を断念するという方針転換はありませんか。中心となる人物についても区長さんではなく、もっと別の人にも話をすべきかと思っています。

【加藤会長】

これは森川委員からのご意見・ご提案という認識でよろしいでしょうか。事情はそれぞれあるだろうし、市役所としてもここで判断することは難しいと思います。

【事務局】

地域協議会推進市民会議は、はじめは地域協議会市民会議として制度設計をすることが目的でした。制度設計どおりの設立や活動となるわけではないという事が分かった10年でした。そういった中でも、できている活動や、できていない活動に対して推進市民会議では様々な見地からのご意見をいただくことを目的に運営をされてきました。代表者会議では活発な意見を言い合うことができていく状況になってきました。未設立地区については他の地区と違った状況があるからこそ未設立になっていることについては先ほど説明させていただきました。すでにあるコミュニティはその地区の財産でもあります。同じ地域で新たに、同様の活動を行う別の団体を作っていくことは理論上合わないというのは我々も理解しております。村中小学区では西部コミュニティセンターでの活動を理解したうえで、残った部分である小学校での防災を行う団体が設立される予定です。コミュニティセンターでは行われていない活動として石田委員からは子ども食堂が地域協議会で取り組むべき活動の1つだとの意見をいただいているものと思います。小牧市内の協議会の活動で言いますと子ども食堂やおたすけ隊活動、小学校の除草作業など今までの自治会では取り組むことが難しい活動に各協議会でチャレンジをしていただいています。米野地区、小牧南地区でもそういった活動を提示しながら設立に向けて理解を求めていくところです。事務局の力不足で、なかなか未設立地区設立に進めていけなかったところは反省をしているところですが、皆様から頂いた意見も参考に設立推進に向けた活動をさせていただいております。

【加藤委員】

他にご意見なければ、最後に伊藤先生からコメントをいただきたいと思います。

【伊藤委員】

コミュニティセンターという先行して地域の活動をされている施設や団体があるという地域性が異なるところに、同様の団体をもう一個作るのは難しいのでそこに無い活動で必要なもの地域協議会で埋めていくという話です。

もともと区でやる事に限界が出てきたので、小行政区で地域協議会をたちあげようという施策であったかと思いますが。学区というところが足枷になっているという話も出てくるのは仕方がないと思います。今回の資料では各小行政区の地域協議会がどのような活動をされているか端的にまとめられていて、互いに学び合える段階になったのだと思います。現場の人たちが互いに学び合うフェーズに移ったことがうかがい知れる状況になったのは素晴らしいと思います。代表者会議を学び合いの場として続けていただきたいです。第三者からの外か

らの意見が必要な時はお声掛けいただければと思います。第三者にヘルプを求めることもいいことだと思います。私は見守ると同時に踏み込んでほしい時があればお声掛けをくださいという気持ちです。以上です。

【加藤会長】

僕から最後なのでひとこと申し上げます。人の心と体を動かそうとするとそんなに簡単ではありません。担い手がいないという話は小牧に限ったことでも、協議会に限ったことでもなくて、町内会活動でも同じですし、地域活動や市民活動でも一緒だと思います。みんな使える時間が限られていて、働かなければならない、人のことに関心を向ける余裕がないという状況だと思います。

人の気持ちや体を動かそうと思うとコツがあって、その一つが色んなチャンネルを用意するという事だと思います。知ってもらっても動かない人もいますが、知ってもらったら動いてもらえるかもしれない。こういった会協議会の会議に出るのは嫌だけど当日、少しだったら手伝えるという人もいます。色んな関わり方ができる場や機会をどれだけ用意できるかが問われているのだと思います。

私はこう思うとか、バイアスと言うのですが、こういうものだという決めつけ、偏見が関わりを阻害していると思います。自分だけが頑張っているというのもしかしたら偏見かもしれないです。そこに気づけないと新しい次の豊かさに繋がらないのではないかなと感じました。最後の一言として申し添えて終わりたいと思います。ありがとうございました。事務局に進行をおかえしします。

【拍手】

【事務局】

委員の皆様、長時間に渡りお疲れ様でした。また 2 年間推進市民会議の委員としての活動にご協力をいただきありがとうございました。この推進市民会議は前進である地域協議会市民会議から、設立前の制度設計や条例の制定や手引きの作成など、様々な形で地域協議会の推進にご尽力をいただきました。まだ道半ばではありますが 14 小学校区で設立の見込みがあり、地域内の議論だけではなく代表者会議など横の話合いの場を持つことができました。その結果、地域協議会がそれぞれ意思をもち、活動や課題解決に取り組んでいるという状況になっています。この状況は 2 年間の活動発表などを聞いていただいた中で感じていただけたと思います。

来年度以降の推進市民会議は定期開催ではなく、代表者会議や地域の中で第三者的な視点からご助言をいただきたい時に開催をさせていただきたいと考えております。事務局としましてはこれまでの推進市民会議の議論を活動の活性化につなげていきたいと考えております。また、未設立の学校につきまして働きか

けを継続していきますし、委員のどなたかに置かれましては直接相談をさせていただくこともあろうかと思えます。ぜひその際にはよろしくご協力をいただければと思えます。

この2年間の皆様がたのご尽力への御礼の言葉とさせていただきます。
ありがとうございました。

【拍手】

以上を持ちまして令和5年度小牧市地域協議会推進市民会議を終了させていただきます。気を付けてお帰り下さいませ。ありがとうございました。